

白川地区 まちづくり懇談会会議録

1. 開催日時：令和6年12月4日（水）午後7時30分から午後9時15分まで
2. 開催会場：町民会館 大研修室
3. 出席者 47名
 - (1) 地元参加者 32名
 - (2) 町執行部等 15名
町長 佐伯 正貴 副町長 安江 章 教育長 鈴木 雅史
総務課長 藤井 充宏 庁舎整備室長 竹腰 耕太郎 企画課長 渡口 彰規
町民課長 長尾 茂気 保健福祉課長 長尾 ひろみ 農林課長 長尾 弘巳
建設環境課長 中村 豊 教育課長 大岩 裕樹 学校再編専門監 玉置 雅野
学校教育係長 鈴木 幸祐 書記 服部 健人
4. 会議資料 別紙のとおり
5. 会議録
 - ・教育課長 会議を開催する旨を述べた。
 - ・町 長 開会にあたり挨拶をした。
 - ・教育長 白川町の学校再編と小・中学校一貫教育について説明した。
 - ・大建設計 施設一体型小・中学校について説明した。
 - ・教育課長 質疑を許した。
 - ・男性B 新しい学校の収容人数の将来設計は、何年後に何人で計画を立てているのか。
 - ・大建設計 現在のクラス編成から推計をしており、統合当初は200人規模だが、その後は150人程度を想定して設計しているため、1階の普通教室を使用しなくなった場合は多様な使い方を想定している。教室の広さは35人クラスに対応したものである。
 - ・教育長 当初は11教室と特別支援学級や通級教室があるが、人数が減っても9学年はキープできるように考えている。
 - ・男性B 図面を見ると手洗いが少ないようにみえるがどうか
 - ・大建設計 図面上に表示は無いが、小学生の各教室に必ず洗い場を設けている。人数が増える中学生は、廊下側に増設して対応している。
 - ・男性C イメージ動画を見ると、ガラス面が多かったり、柱が少ないように見え、地震への対策が心配になったがどうか。
 - ・大建設計 動画では伝わりづらいが、この校舎自体はガラスが少ない建物である。また、柱も少ないように見えるが、1階は鉄筋コンクリート、2階は木造の構造的にバランスの良い建物であり、地震への対応としては耐震基準を十分に満たす構造となっている。
 - ・男性C 学校が避難所になった場合に、テントを張ったり布団を広げることは可能か。
 - ・教育長 災害が起きた場合は、指定避難所として開放する事になるが、基本的には体育館を使用する事になると思う。その場合、一階の体育館に近い場所に家庭科室があるので、炊き出しも合理的にできる設計である。

校舎の内部まで使用する事については、今のところ考えていないが、可能ではあると考える。

・男性D いくつか質問がある。1つ目は、設計の段階から町内の設計士が行う事はできなかったのか。2つ目は多目的エリアは具体的な使用予定があるのか。3つ目は遊びの森が低学年向けとあるが、9学年の低学年となると4、5年生までを対象としているのか。4つ目は一般の方が学校に入れるというのはセキュリティ上大丈夫なのか。5つ目はエレベーターが2カ所もあるが、2つも必要なのか。

・教育長 1つ目の設計の事については、プロポーザルという方式で事業者を選定した。2つ目の多目的エリアについては、1階の教室は地域の会議室などに使用するという話はしたが、それ以外でも個別授業が必要な生徒の教室としたり、白川町ではまだ例がないが、日本語が話せない生徒が来た場合の専用教室とするなど、幅広い使い方を想定している。

3つ目の遊びの森については、まだどんな遊具を導入するかは決めていないが、ジャングルジムやぶらんこなど、現在の小学校1年生から3年生程度が遊ぶ事を考えている。ただ、一輪車の練習場所や、ゆっくり休めるベンチを設置するなど、小学生から中学生までがくつろげるスペースとしたい。

4つ目のセキュリティ対策については、大建設計の資料（プロジェクター投影）を見ていただきたいが、いわゆる学校としてのエリアは放課後や休日は閉鎖する事で、一般の方は侵入できないようにしている。

5つ目のエレベーターの事については、基本的に生徒が使用することは想定していないが、骨折した生徒や体が不自由な生徒がいた場合に使用をする。2カ所にある事については、給食の配膳のほか、地域の方々の多目的な利用が想定されるため、利便性のために配置した。ただし、経費的な面も考慮した上で、箇所数については検討することとしたい。

・学校再編専門監 町内の建築士が設計できなかったかのご質問についてお答えする。今日的な学校に求められている機能を盛り込んだ新しい時代の校舎を設計するには、一定数以上の技術職員が雇用されていることや、校舎の設計の実績があることなどが重要な要件となってくる。そのためプロポーザルに参加するためにそのような要件を付加した。残念ながらそのような要件を満たす設計事務所は町内になく、設計に参加していただくことはできなかった。

セキュリティの面で補足だが、文部科学省はこれからの学校の在り方として地域に開放された学校を推奨しており、今まで視察に行った学校でも門扉が無い学校は普通にあり、そのような学校では、地域の方が学校に入る事で、お互いに見守り合うという形で安全が確保されている。

・男性E 最近是不登校の生徒も多いと聞かすが、保健室なら通学できるという生徒もいるとのこと。そういった生徒はリソースルームや相談室などを使う事になると思うが、生徒玄関から入って、そこにたどり着くまでが億劫だと思うがどうか。

・教育長 部屋の使い方は想定の話であり、その通りになるとは考えていない。体育館にも小さな部屋があるので、生徒に合わせてリソースルームや相談室を使用する

など、何段構えかで対応できるようにしていきたい。

- ・総務課長 自主防災活動補助金、防災アドバイザー派遣事業について説明した。
- ・庁舎整備室長 新庁舎建設工事の進捗状況について説明した。
- ・企画課長 公共交通対策、空き家管理について説明した。
- ・農林課長 次年度からの農業振興策について説明した。
- ・保健福祉課長 暮らしに役立つ勉強会について説明した。
- ・教育課長 質疑を許した。
- ・男性D 農地利用の明確化については非常に良い取り組みであると思う。同じように、土地や建物の明確化が進めば、空き地の利用や移住に繋がると思うが、これを自治体単位で行ったらどうか。
- ・企画課長 黒川では、様々な事業者が集まって空家対策会議というものを組織し、所有者情報などの共有化を図っている。この取り組みは素晴らしいものなので、白川地区でも実施していただきたい。
- ・男性A 白川茶が低迷しているが、ブランディングが大切だと思う。
現在の白川町の取り組み状況はどうか。
- ・農林課長 白川茶の美味しさは町民なら知っていると思う。販売に関しては茶商会を通じて全国で販売をしているが、煎茶の需要が非常に少ないのが現状であり、静岡や鹿児島といった一大産地もペット茶への転換や有機栽培に転換をしていっている状況である。抹茶も世界的に取引されるようになってきているが、シェアが少ない白川茶では難しい部分がある。
ただ、逆にその希少性にブランド化の素質があるため、例えばフレーバーを加えるなど、希少性に付加価値をプラスしてブランディングを図る必要があると考えている。
- ・教育課長 他に質疑がなかったので閉会の旨を述べた。
- ・副町長 閉会にあたり挨拶をした。

(午後9時15分閉会)